

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年9月16日（木）

2 確認箇所

- (1) サブドレン他浄化装置
- (2) 旧処理水バッファタンク

3 確認項目

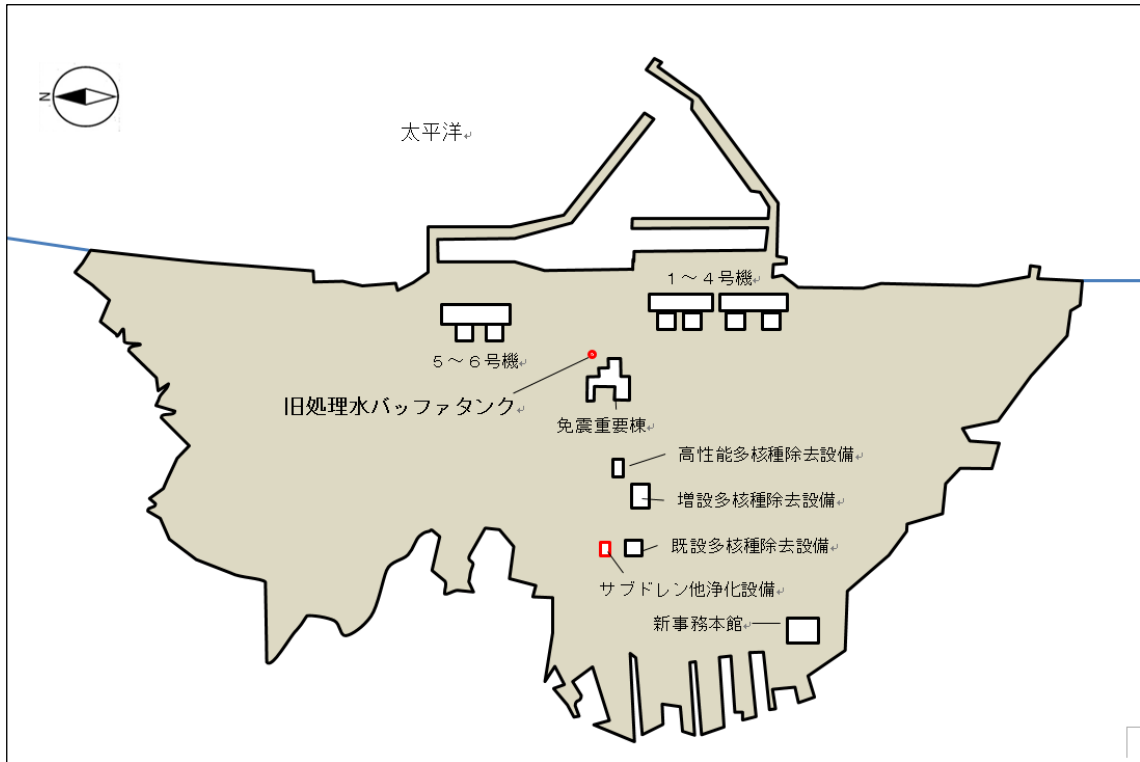
- (1) サブドレン他浄化装置の自動停止事象
- (2) 旧処理水バッファタンク解体工事の状況

4 確認結果の概要

(1) サブドレン他浄化装置の自動停止事象について

本日（9月16日）午前5時40分頃、東京電力が免震重要棟で定期的に確認しているサブドレン他浄化装置端末の監視画面で、同装置が自動停止していることを確認したことから、現場の状況を確認した。（図1）（写真1）

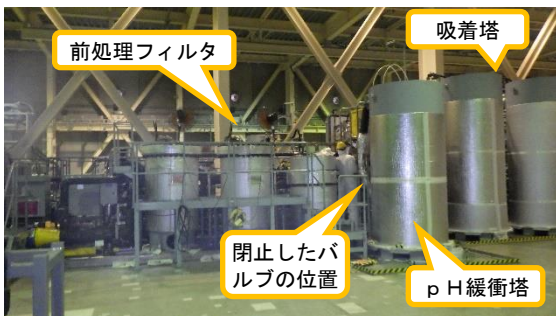
- ・現場到着時（10時40分頃）、自動停止に係る現場での作業は行われていなかった。現場の東京電力社員によれば、現在、端末の監視画面上で原因究明等を行っているとのことであった。
- ・また、吸着塔入口付近のバルブは閉止され、装置の稼働は停止していた。（写真2）
- ・その後の東京電力の調査で自動停止の原因は、吸着塔入口に設置されたバルブの開閉状態を感知するリミットスイッチが位置ずれを起こしたことにより、バルブの開閉状態が誤認され発生したものと判断されたことから、リミットスイッチの位置調整及び動作確認を行い、本日（16日）午後8時56分に運転を再開した。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



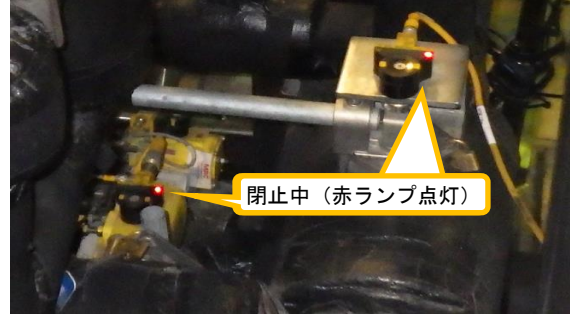
(写真1)
サブドレン他浄化装置建屋の状況



(写真2-1)
サブドレン他浄化装置の状況



(写真 2 - 2)
閉止していたバルブの状況



(写真 2 - 3)
写真 2 - 2 の拡大

(2) 旧処理水バッファタンク解体工事の状況について

原子炉注水用の水源の 1 つとして原子炉建屋等の滞留水を処理した水を貯留していた旧処理水バッファタンクは、フランジ型構造で相対的に高い漏えいリスクを有していたことから、相対的に漏えいリスクが低い溶接型タンクを新設して令和元年 7 月以降、貯留水の移送や配管の取り外しなどが行われてきた。(図 1) (写真 3)

本年 8 月に旧処理水バッファタンクの解体が着手されたことから、状況を確認した。

- ・旧処理水バッファタンクの解体は完了しており、解体片も現場から撤去されていた。(写真 4)
- ・堰内の底面には放射性物質の飛散防止用の塗料が塗布されていた。(写真 4)



(写真 3)
旧処理水バッファタンク設置場所付近の状況



(写真4-1)
旧処理水バッファタンクの設置状況
(令和元年7月19日撮影)



(写真4-2)
撤去後の状況
(令和3年9月16日撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。